

	教材名・時数・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
1 学 期	<p>朝のリレー</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)</p> <p>→声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。</p> <p>【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・提出物(プリントなど) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物(プリントなど)
	<p>言葉に出会うために 声を届ける 野原はうたう 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)</p> <p>→聞き手を意識して声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の大きさや高さを工夫している。</p> <p>→情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。</p> <p>【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。</p> <p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) <p>→ノートの書き方の工夫を理解し、線や矢印で情報を整理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) <p>→これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。</p> <p>【態】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。</p>	<p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物(プリントなど) ・発表 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物(ノートなど) ・授業への取組
	<p>はじまりの風</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→図などを使って、心情の変化を整理している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)</p> <p>→場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。</p> <p>【態】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。</p>	
	<p>【聞く】 情報を聞き取り、要点を伝える</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)</p> <p>→日常の話題について、聞き取った情報を整理し、伝える内容を考えている。</p>	

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
<p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>【態】聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。</p>	
<p>言葉 1 音声の仕組みや働き</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)</p> <p>→日本語の音声は母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変化することなどを理解している。</p> <p>【態】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。</p>	
<p>話の構成を工夫しよう 一枚の写真をもとにスピーチをする</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)</p> <p>→声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ)</p> <p>→聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)</p> <p>→聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。</p> <p>【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。</p>	
<p>漢字 1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう 1</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>	
<p>ダイコンは大きな根？</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→本文中で比較がどのように使われているかを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)</p> <p>→「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。</p> <p>【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝</p>	

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
<p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>え合おうとしている。</p>	
<p>ちょっと立ち止まって</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ →筆者の主張と事例との関係を整理している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。</p> <p>【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。</p>	
<p>情報を整理して説明しよう</p> <p>発見したことをわかりやすく書く</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明に必要な情報を取捨選択している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →わかりやすく説明するために、まとめ方や順序を工夫している。 <p>【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。</p>	
<p>言葉2</p> <p>指示する語句と接続する語句</p> <p>◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ →例を基に、指示する語句と接続する語句の種類や働き、使われ方などについて理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。</p>	
<p>空の詩 三編</p> <p>【書く】詩の創作教室</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上 	

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
<p>章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>げて表現の効果を考えている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</p> <p>→読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。</p> <p>【態】詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。</p>	
<p>言葉3 ささまざまな表現技法</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、具体的な言葉を挙げて指摘している。</p> <p>【態】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。</p>	
<p>比喩で広がる言葉の世界</p> <p>◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★解説の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)</p> <p>→各段落の役割を理解し、文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉えている。</p> <p>【態】進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>	
<p>文法への扉1</p> <p>言葉のまとまりを考えよう</p> <p>文法1 言葉の単位</p> <p>◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ)</p> <p>→文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。</p>	

	教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
2 学 期	<p>大人になれなかった弟たちに……</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解するうえで、読書が役立つことを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。</p> <p>【態】登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・提出物（プリントなど） <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物（プリントなど） ・発表 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物（ノートなど） ・授業への取組
	<p>星の花が降るころに</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。</p> <p>【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。</p>	
	<p>項目を立てて書こう 案内文を書く</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えている。 <p>【態】必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書くようとしている。</p>	
	<p>【推敲】読み手の立場に立つ</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →正確でわかりやすい表現に書き改めている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかななどを検討している。</p> <p>【態】粘り強く文章を推敲し、今までの学習を生かして案</p>	

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
等) ★ 行事の案内を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	内文を書き改めようとしている。	
言葉4 方言と共通語 ◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 【態】 今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。	
聞き上手になろう 質問で話を引き出す ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★ 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	【知・技】 音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア →話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などに注意しながら話している。 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。 【態】 進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。	
「言葉」をもつ鳥、シジウカラ ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★ 記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →文章の構成や展開の効果について、根拠となる段落や部分を挙げて考えを書いている。 【態】 文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。	
思考のレッスン1 意見と根拠 ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →適切な根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。 【態】 根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。	
根拠を明確にして書こう	【知・技】 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしか	

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
<p>資料を引用して報告する</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>た、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点などを見いだしている。(B(1)オ)</p> <p>→読み手の助言を基に、引用のしかたや根拠の明確さなどについて、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。</p> <p>【態】根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。</p>	
<p>漢字に親しもう3</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>	
<p>文法への扉2 言葉の関係を考えよう 文法2 文の組み立て</p> <p>◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ)</p> <p>→「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。</p>	
<p>聴きひたる 大阿蘇</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。</p> <p>【態】進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。</p>	
<p>古典の世界 音読を楽しむ いろは歌</p>	<p>【知・技】</p> <p>・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ)</p>	

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
<p>◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>→小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。</p> <p>・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</p> <p>→言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。</p> <p>【態】古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見直しをもって、古典の世界に親しもうとしている。</p>	
<p>蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</p> <p>→音読に必要な文語のきまりや、古典特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ)</p> <p>→文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。</p> <p>【態】進んで古文を音読し、今までの学習を生かして、描かれている古典の世界を想像しようとしている。</p>	
<p>今に生きる言葉 【書く】 故事成語を使って体験文を書こう</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★本や資料から文章を引用して説明するなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</p> <p>→訓読のしかたや漢文特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ)</p> <p>→本文を読んで故事成語について理解したことに基づいて、自分の体験と故事成語を結び付けて考え、短い文章を書いている。</p> <p>・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p> <p>→故事成語と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。</p> <p>【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。</p>	
<p>「不便」の価値を見つめ直す 【書く】 筆者の主張に対する自分の意見を書こう</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解</p>	<p>【知・技】</p> <p>・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→自分の意見を述べるときには、根拠が必要であることを理解している。</p> <p>・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p>	

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
<p>を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>→情報の整理のしかたを理解し、必要な情報を選び、結び付けて、本文を要約している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) <p>→目的に応じて必要な情報に着目し、要約している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしてしている。(C(1)オ) <p>→文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) <p>→立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げなが、意見を書いている。</p> <p>【態】必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>	
<p>思考のレッスン2 原因と結果</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→原因と結果がどうつながっているか整理し、その関係について理解している。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。</p>	
<p>漢字に親しもう4</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>	
<p>【話し合い(進行)】 進め方について考えよう</p> <p>◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎話題や展開を捉えなが話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合</p>	<p>【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→根拠を述べたり、前の人の意見を受けたりして話すことを理解している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えなが話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ)</p> <p>→動画を視聴し、話題や展開を捉えなが話し合うための工夫について、自分の考えをまとめている。</p> <p>【態】進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。</p>	

	教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
	う。(思・判・表A(2)イ)		
	<p>話題や展開を捉えて話し合おう グループで語り合い、ものの見方を広げる</p> <p>◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)</p>	<p>【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ)</p> <p>→話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。</p> <p>【態】積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。</p>	
	<p>研究の現場によるこそ 四百年のスローライフ はやぶさ2 最強ミッションの真実 読書案内 本の世界を広げよう</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)</p> <p>→読書の意義(読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つこと)を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)</p> <p>→作品を読んで得た疑問や感想を、グループで伝え合う活動を通して、自分の考えを確かなものになっている。</p> <p>【態】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>	
3 学 期	<p>少年の日の思い出 [書く] 別の人物の視点から文章を書き換えよう 漢字に親しもう5 7時間(読⑤書②)</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)</p> <p>→時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)</p> <p>→登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→読み深めたことを基に、別の人物の視点から出来事や心情を捉え直して、作品を書き換えている。</p> <p>【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト ・提出物(プリントなど) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物(プリントなど) ・発表 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物(ノートなど) ・授業への取組

教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
<p>★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★小説を書き換えるなど、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>		
<p>文法への扉3 単語の性質を見つけよう 文法3 単語の分類</p> <p>◎単語の類別について理解することができる。 (知・技(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。</p>	
<p>二十歳になった日</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。</p> <p>【態】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものを見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。</p>	
<p>構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆など、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →読み手が状況をイメージできるよう、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書きだしや結び、描写を工夫している。 <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。</p>	
<p>漢字3 漢字の成り立ち</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ →漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べ</p>	

	教材名・指導目標・言語活動	評価規準	評価材料
	<p>を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	<p>ている。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。</p>	
	<p>ぼくが ここに</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩を読み、考えたことなどを伝え合う。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→詩に用いられている表現の技法を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)</p> <p>→表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。</p> <p>【態】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。</p>	